

教育研究上の目的

人間生活学部は、建学の精神に基づき、「食・栄養・運動・福祉」の観点から、人生100年時代の中で、乳幼児から高齢期までの健康の保持・増進を図り、全て人々が幸福な生活を送る【健幸】を支援できる人材の養成を教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

人間生活学部では、国民の健康増進を形成する基本的要素となる視点を学修し、乳幼児期から高齢期までそれぞれのライフステージにおける健康的な心身機能の維持及び向上などに資することができる資質や能力の育成に取り組む。

特に、「食・栄養・運動・福祉」を教育研究の中核とし、人間生活の課題の解決に関して自然、社会などの諸科学の成果を応用して追究できる人材の養成を目指す。

さらに、人々の健康の保持・増進に寄与するために必要な専門的知識と技術を具備し、健康で幸福な【健幸】を支援できる人材を養成することを目的とする。

人間生活学部では、この目的を達成するために、次の人材像を人材養成の方針とする。

1. 「食・栄養・運動・福祉」に関する幅広い知見を有し、【健幸】の質の向上の必要性を理解できる教養を備える
2. 高い倫理観と、人や社会に貢献できる豊かな人間性を兼ね備える
3. 人間生活における様々な課題を理解し、解決するための創造力を備える
4. 社会や地域で専門的知識や技能を多職種連携の視点から応用できる実践力とマネジメント力を備える
5. 情報リテラシーを有し、コミュニケーション力と推進力を発揮して、人々を【健幸】に導くことができる

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

人間生活学部の教育課程は、基礎的な学修能力や社会に対する態度などを養う「共通科目」と各学科の専門的学修を行う「専門科目」の2つに区分し、本学部の人材養成に必要な科目を配置する。

人間生活学部としては、以下の方針に基づいて教育課程を編成する。

1. 学部の教育を実現する科目として、「地域と人間生活」を開設し、「食・栄養・運動・福祉」の観点から、地域社会における総合的な支援や一人ひとりにとっての【健幸】を学修する
2. 共通科目として、本学独自の「ゼミナール」をはじめ、「総合」、「女性を生きる」、「社会に生きる」、「保健体育」、「外国語（基礎科目）」、「情報処理」、「キャリア教育」を設定して、社会人として必要な知識・技能を修得する
3. 専門教育として、四学科にそれぞれ専門科目を設定し、【健幸】を支援できる女性として必要な専門的知識や技術を修得する
4. 学科の枠を越えた学びの場を提供することで、人間生活の視野を広げ、豊かな知識と幅広い応用力を持った柔軟性のある社会人を育成する
5. 習得してきた知識・技術を統合し活用する能力を養うため「卒業研究」を設定し、人間生活の課題を探索し取り組むことを追究し、【健幸】を総合的に理解・発展させる能力を養う

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

人間生活学部では、次のような学生を求める。

1. 「食・栄養・運動・福祉」についての幅広い関心を持つ女性
2. 人や社会に貢献できる豊かな人間性を追求する女性
3. 人間生活における様々な課題を理解し、解決するための意欲を持つ女性
4. コミュニケーション力を発揮して、人々の【健幸】を願う女性

また、入学後の学修の基盤として、次の知識や能力が求められる。

①知識・技能

1. 「食・栄養・運動・福祉」に関する基礎知識を有している
2. 「食・栄養・運動・福祉」についての人や社会への関心を有している
3. 人々の健康の保持増進への意欲を有している

②思考力・判断力・表現力

1. 「食・栄養・運動・福祉」に関しての課題や問題点を見つけ、解決へのプロセスを思考することができる
2. 「食・栄養・運動・福祉」に関して、学内外の実体験を活かし文章等の表現で伝えることができる
3. 学内外の実体験を生かし、多様な人間生活の課題への対応について判断できる

③主体性・多様性・協働性

1. 集団の中で他者を理解することができる
2. 集団の中で自分の考えを他者に伝えることができる
3. 課題に対して他者と協働して取り組むことができる